

山陽特殊製鋼株式会社
2022年度決算(W e b 説明会)
質疑応答(要旨)

開催日 2023年4月28日(金)
出席者 代表取締役社長 宮本 勝弘
取締役常務執行役員 高橋 幸三
常務執行役員経営企画部長 八並 敬之

Q. O v a k oの一過性影響の実績額および一過性影響を除く実力損益を四半期毎に教えてほしい。

A. 一過性影響は第1四半期に29億円、第2四半期に20億円、第3四半期に26億円、第4四半期に21億円含まれており、それぞれ実力損益は44億円、-3億円、24億円、51億円と整理している。

Q. 当社単独の2022年度営業利益は87億円、経常利益は102億円、2023年度予想では営業利益110億円、経常利益150億円と段階損益の差が大きくなっているが、この要因は。

A. 2023年度では、2022年度までになかったO v a k oからの受取配当金を予定しているため、営業外収益が増加する。O v a k oのD/Eレシオが改善してきたため配当を行うこととした。なお、子会社からの受取配当金は連結決算上消去されるため、連結業績への影響はない。

Q. 2022年度第3四半期から第4四半期にかけてO v a k oの販売・原燃料価格、構成が20億円改善している。このスプレッド改善の影響は2023年度も続くと考えられるのでは。

A. 2022年度の第4四半期はエネルギーコストが前四半期より下がったことなどのプラスの要因があったが、2023年度では、第4四半期に価格対応リスクや拡販のための品種構成のマイナス影響を織り込んでいる。

Q. 欧州マーケットの需要動向をどのようにみているか。

A. 若干日本よりも早く底打ちをしていると思うが、回復の足取りは重く、底這いながら年度後半に向け回復をしていくのではないかと考えている。

Q. 当社単独の2023年度販売数量見通しは2022年度並みということだが、自動車生産の見通しをどのように考えているか。

A. 2022年度にサプライチェーンの在庫調整が進んできて、実需の戻りがどうかということだが、回復にはまだ時間がかかり夏以降になるのではないかと考えている。

Q. 2023年度の当社単独の損益にはエネルギーサーチャージのタイムラグ影響が+30億円含まれているとのことだが、実力損益はこれを除いたものと考えられるのか。

A. 2023年度には前期のエネルギーコスト上昇が販売価格に反映されることによりプラスのタイムラグ影響が発生すると考えており、エネルギーサーチャージのタイムラグ影響についてはご理解の通りである。一方で、期間損益には鉄スクラップサーチャージのタイムラグ影響など、様々な影響も含まれる。

Q. PBR向上に向けた取組みを開示する予定とのことだが、これは東証の要請が契機であったということか。また、開示はいつ行う予定か。

A. PBRの向上については常々考えていることである。社内で議論をしたうえで、次の決算発表時に開示することを考えている。

以 上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。